

# 鉄塔損壊メカニズムの推定

片側の電線を撤去した状態(片側架線状態)で、偏心荷重が発生

ステップ1	ステップ2	ステップ3
<p>強度計算上、最も安全率の低い箇所である第5パネルC-D面の腹材が圧縮応力により座屈した。</p>	<p>C-D面の腹材が座屈したことにより、A-B面腹材へはステップ1でかかっていた2倍の引張応力がかかり破断した。</p>	<p>C-D、A-B両面の腹材の損傷により、第5、6パネル支柱材に大きな曲げ応力が発生し、全ての支柱材が破断した。</p>